

遠隔地包括ケアシステムを開発

i pad 利用し遠隔診察も

福祉ジャパン 初年度は50件の導入見込み

備後エリアの高齢者や障害者向け情報サイト「ケアパネル備後」を運営する福祉ジャパン(福山市曙町4-3-18、山田哲矢社長、電084・959・5010)は病院、診療所、介護事業所などの患者・利用者らと医師らスタッフが遠隔地で包括的な意思疎通を図るシステム「ケアパネルシステム」を開発、販売を始めた。

携帯端末「iPad」アプリ「ド」を用い、テレビ電話などで医師と患者らの意思疎通が図れるという。同社ではiPadに、運営サイトを登録することで、緊急時にタクシーが利用できるなどの相乗効果を目指す考えだ。



iPadを用いたテレビ電話の風景。円内は山田社長

医師、看護師、ヘルパーと、患者・利用者

者にiPadを配布し、患者や利用者は気になった点があれば、テレビ電話で遠隔地から、医師や看護師に連絡。患者が端末で患部の写真を撮影し、医師や看護師とネットワーク接続することで、医師の遠隔地診察も可能になるという。高齢者でも利用できるよう、端末上のボタン

にタッチすれば通話が可能。同社は備後エリアの病院や診療所、介護事業所向けに、iPadとソフトをセットで販売。10部屋ほどの医療機関なら、システム導入費は300万円から。運営サイトの掲載施設とリンクし、買い物代行や掃除業者、タクシー業者などの利用を促進する。システム導入施設は初年度50件を見込んでいる。

山田社長は「システムは医療機関が患者や家族らに貸し出す。ネットワークを利用することで高齢者などの安否確認もできる。愛知県のシステム開発会社と共同開発し、東日本大震災被災地の福島県内の医師会にも導入実績があるなど、優れたシステムと言える。緊急時の医療現場にも導入を提案したい」と方針を語った。

3年半の活動をHPで報告 東北被災地に19回282人

「てごうし隊」

広島土砂災害派遣の 캄パも

福山の市民ボランティア団体「てごうし隊」(馬場依奈美代表)はこのほど、3年半にわたる活動報告をホームページ(<http://tegoushi.com/prilogue>)に発表した。同団体は「備後と東北の新しい絆を作り、温かいマンパワーを東日本に届ける」を活動理念に掲げ、2011年3月に発生した東日本大震災わずか2ヵ月後に発足。

活動は30回以上になり、そのうち東北被災地での復興ボランティア活動は19回延べ282人へのぼった。また、このたびの広島土砂災害にも発生直後から毎日2人を派遣しているが、ガソリン価格の高騰で財政が逼迫しているため、 캄パを呼びかけている。

馬場代表は「少しでも多くの方にてごうし隊の活動を理解し、支援をして頂ければ広島土砂被災地復興の活動が継続できます」とアピールしている。

活動資金の受付口座は広島銀行福山南支店の普通預金(3264757)、口座名義は「てごうし隊 代表 馬場依奈美(ばばえなみ)」。

香りが紡ぐ炭火珈房ピトン物語

喫茶教室併設

第一・第三水曜日 AM8:00~9:00

南蔵王本店 福山市南蔵王町5丁目16-19 TEL943-5911

曙店 福山市曙町5丁目12-16 TEL981-3270

蔵王店 福山市南蔵王町5丁目18-34 TEL940-5105

ユニフォーム アパレルメーカー

bigborn®

ビッグボーン商事株式会社

〒729-3101 福山市新市町戸手735-1

TEL (0847) 40-3311 FAX (0847) 40-3333